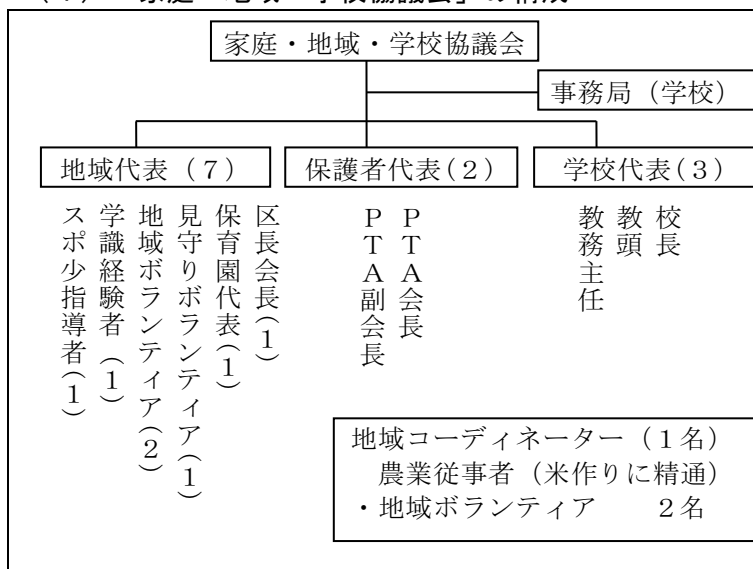


令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

おおい町立佐分利小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の開催計画

開催回数	年間3回
第1回	6月28日 趣旨説明 今年度の学校経営方針 児童の様子
第2回	11月1日 教育活動の中間報告 学校評価の説明 児童の安全確保
第3回	2月3日 学校評価の報告 今年度の反省と課題

(3) 協議会における成果と課題

- ・協議会の中で「猛暑時での体育大会をもう少し涼しくなった10月や春に行うことができないのか」という意見が出てきた。その意見を受けPTAにもアンケートを取りその結果を踏まえて、町校長会で協議し、来年度より春に行うことになった。

2 地域と進める体験活動の計画

(1) 活動のねらい

- ① ふるさとの自然・文化・歴史について学び、地域の課題を考え、ふるさとの誇りと愛着をもった児童を育成する。
- ② 自身の将来や生き方、社会との関わり方を考え、地域に新たな活力を生み出す人材を育成する。

(2) 活動の実際

- ① 「おおい町発掘～おおい町の産業」(3年生)4月～2月
3年生は、お茶摘みとお茶作りを行った。音楽の授業で「茶摘み」を学習した後、歌いながら、学校にある茶の新芽を摘み、電子レンジで乾燥させて揉み、出来上がった緑茶を試飲したり教職員や参観に来た保護者にも配ったりして感想をもらった。
地域のお茶のサークルの方にゲストティーチャーとして来校していただき、礼儀や抹茶のルーツ等について教わったり、抹茶の立て方の体験をしたりした。
6月には4年生と一緒に、地域の方の協力のもと、地域の特産物である「梅」を収穫し梅ジュースの作り方を教わった。梅の効能についても知り、出来上がった梅ジュースは保護者会の時に保護者にもふるまった。
- ② 「佐分利探検～きのこの探求」(4年生)5月～2月
4年生は、おおい町の特産品であるきのこについて、きのこの森の職員の方にお世話になり原木や菌床によるしいたけの栽培を行った。秋には、きのこの森できのこ観察を行い、職員の方から様々な種類のきのこについての説明を受けた。



また、3年生と一緒に学習した梅と4年生で学習したしいたけを、たくさんの人に知ってもらうためにどうすればよいかを考え、梅やシイタケのマスコットキャラクターや梅とシイタケを使った料理を考案したりした。料理を考案する際には、栄養教諭に協力していただきアドバイスを受けた。

③ 「おおい町発掘～おおい町の産業」（5年生）4月～2月

5年生は、おおい町の産業である農業（稲作・自然薯栽培）について学習を進めた。

稲作についての学習では、田植え前の杵回し体験や田植体験、案山子づくり体験等を通して、農業の魅力を体感したり、農家の人の米作りに対する思いや願いについて話を聞き、理解を深めたりした。収穫した米は、収穫祭（11月）において、他の学年が栽培・収穫した野菜とともに調理し、お世話になっている地域の人を招待し、味わっていただいた。



④ 「ふるさと再発見～若狭地方の歴史と文化」（6年生）4月～2月

6年生は、おおい町や若狭地域の歴史・文化・伝統・産業について調べた。

社会科の歴史学習や総合的な学習の時間において、杉田玄白や松木庄左衛門など故郷の歴史的な人物についての調べ学習を行った。

どの学年も、活動後には1年間の学習をまとめ、2月の「表現タイム（学習発表会）」において、各自が調べてきたことを全校児童と保護者に発信した。

（3）地域コーディネーターの活動概要

- ・稲作体験の指導・支援（杵回し体験・田植え）
- ・農業についての説明
- ・梅やしいたけについての説明・栽培や梅ジュースづくりの指導・支援
- ・お茶についての説明・抹茶の立て方の指導・支援

（4）特に工夫した事項

- 地域コーディネーターや協力者との連携を密にし、活動がスムーズに行えるように配慮した。
- 見学だけでなく、体験したり、働く人の苦労や思いを聞き取ったりすることができ、深い学習となった。
- 学習したことをまとめ、表現タイムで他学年の児童や保護者に発信することができた。その際高学年は地域の学習を通して自分のとのかかわり、今後自分はどうしていきたいかなどについても考え、発信した。

（5）成果と課題

佐分利地域には、たくさんの特産物やそれを指導・支援してくださる地域の方がいる。その方の協力を得て、様々な体験活動を行うことができた。その結果、学校評価において「生活科や総合的な学習の時間、行事等で地域の様子を見学したり、地域の人のお話を聞いたりするのが楽しい」と答えている児童は約95%に達している。また、「学校は、生活科や総合的な学習の時間、学校行事等で、地域の教材や人材を生かした教育活動に取り組んでいると思う」と評価した保護者は100%に達し、児童・保護者共に活動の充実を感じ取っている。

家庭・地域・学校協議会で学校の取組を紹介している。委員の方からこれらの活動は地域に愛着を持つ児童の育成に繋がり、今後も続けていってほしいという意見をもらえた

今後は、活動が「ただ楽しい」だけに終わるのではなく、自分とのかかわりや次にどう繋げていくか等についても考えさせたり、地域の貢献する活動に発展させたりして、学校と家庭・地域のより深いつながりができるよう工夫していきたい。

